

20周年を迎えるミランクラブネパール

特定非営利活動法人ミランクラブジャパン
理事長 マダ-ブ ナラエン マナンダ-ル

ミランクラブの主旨は識字率向上にある。カースト制度や男尊女卑の社会の中で取り残された女性に教育を受ける機会を与え、自立の手助けをすることで女性の地位向上、社会参加を助けることにある。結果的に識字率も上がり国の発展にも寄与できる。一日でも早く少しでも男女平等に近い社会になるよう支援を進めている。この目的達成のため1988年に先ず日本でミランクラブジャパンを発足。約2年間の準備期間を経て、1990年にネパールで活動を開始した。私自身、当初ネパール文化遺産復元プロジェクトに関わっていた。年数回のネパール渡航、長期滞在であったことから活動ができた。日本からの支援金を里子に直接手渡せた。しかしネパールでの個人の活動に限界を感じ、1992年に国の認可を得てミランクラブネパールを発足させた。ネパール在住の8名の友人・知人の賛同を得たことであった。ネパールでの活動は引継がれ、今年20周年を迎えた。

現在ミランクラブネパールは11名の役員に3名のアドバイザーと2名のコーディネーターで活動を行っている。コーディネーター以外は無償ボランティアである。サガル・マナンダール役員は自宅の一室を事務所として提供している。アマール・マリ副会長を中心として活動を行っている。活動の内容は次号で紹介する。コーディネーターの役割は大きい。里

子と直接、接することの多いコーディネーターは全員女性で、里子から相談を受けたり、悩みを聞いたり、きめ細かな配慮を期待してのことである。また元里子ということでも共感を得やすく、里子の目標、お手本となることも期待している。今までのコーディネーターを紹介する。第1号はプロミラ・マラカール（現在はネパールにある国連機関に勤務）、第2号はご存じの方も多いメリナ・マナンダール（アメリカダブ在住）、第3号はカリシユマ・ドゥンガナ（元里子で現在はアメリカホストで勉強中）、第4号はバビナ・グルン（元里子で現在はオーストラリア、ドイツで勉強中）そして第5号は一番経歴の長い現在のコーディネーターのラミタ・マハルジャン（元里子の第一号）、第6号はスニタ・スレスタ（元里子で現在はカトマンズの養鶏場勤務）そして現在ラミタの補佐をしている第7号のスピナ・マナンダール（大学生）である。

ミランクラブの支援の特徴は、奨学金をコーディネーターが直接里子たちに手渡すことである。元気な姿を確認し、近況報告を受け、適切なアドバイスも行う。

両親または父親を亡くし寂しい思いをしている里子たちに集える場を提供し、催しを行ったり、励まし合って勉強を頑張れるようサポートしている。今月号の「里子たちは今」でラミタ・マハルジャンの一日を参考にされたい。 続く...